



みなと支部ニュース

2023年冬号



今年もよろしく
お願いいたします。

秋の神社巡りウォーキングをしました！

昨年11月10日、扇町にある愛宕神社に、みなと支部の組合員7人が集合して、神社巡りを行いました。天気は快晴で絶好のハイキング日和。

同神社の由緒書によりますと、「鎌倉時代の建治元年（1275年）の創建で、祭神は火産靈神ほか2神で、近郷の住民より鎮火尚武の神として崇敬される」とありましたが、そのことは太平洋戦争時の米軍の空襲時の焼夷弾攻撃の際も、このあたりから西にかけては火が燃え移らなかったとの組合員の思い出話が出ました。また、そこを北に抜けて鉄路を越えたら大的場海水浴場があり、みんなで海水浴に興じたとの思い出など、会員の夫々の懐かしい記憶が鮮やかに蘇りました。境内には住吉神社も。

次は、錦町のNHK高松放送局の北側にある、日和山（ひよりやま）神社に皆でワイワイお喋りしながら歩いて到着しました。ここは由緒によりますと、御祭神は大物主命、菅原道真公他4神であり、創建は江戸時代の明暦2年（1656年）。高松藩がお舟蔵を築いたときほりおこした土砂をもりあげて丘をつくり、そこへ航海の守護神といわれる金毘羅大権現（大物主命）を勧請して祀ったもの。現在は平地だが、名称の日和山とはそのかたわらに藩の日和見番所があったからとか。藩主が参勤交代で江戸に出るには船路しかなく、航海安全のため。

その後、ひろばの天勝へ行き、10日の「天の日」のランチで、楽しく、美味しく締めました。



劇団前進座香川公演に協力・参加して



昨年11月15日に、劇団前進座の「一万石の恋」昼夜2回公演が、レクザムホール小ホールでありました。このお芝居は、前進座が創立90周年を迎え、「男はつらいよ」でおなじみの山田洋次監督が前進座とのコラボ第2弾として書き下ろした作品、と聞けば喜劇を連想します。

香川医療生協は、過去2回ほど前進座の公演を主催しました。「赤ひげ」「怒る富士」は記憶に残っている方も多いと思います。今回は、コロナ禍ということもあり、積極的な主催者にはなりませんでしたが、公演成功への貢献はできました。

さて、お話は、伊予の国志摩波藩1万石余の小藩のお殿様が、江戸の下町の娘に恋したが、娘には言い交した若者がいて、お殿様のお女中にはならないと言う。長屋では大家を筆頭に、娘が死んで奉公には行けないと嘘をついてお葬式を行い、この苦境を脱しようとする。最後は、このウソがばれても、お殿様は別の楽しみを見つけ、許してしまうと言う段取り。観劇は黙って観るのがマナーですが、会場は爆笑の連続。お芝居が終わっての口上では、珍しく撮影OKとのことで、多くの人が携帯で役者さんを撮影しました。

私は公演の協力者として個人参加しましたが、殆ど実施は不可との絶望的状况から、前進座の担当者の粘り強い努力が徐々に功を奏して気運が盛り上がり、実行に至りました。打ち上げの後の小宴には役者さんも参加して、舞台での役者の迫真の演技の努力が感じられ、素人の私にとっては、公演決行の一員として努力したことが誇りに思えました。

支部運営委員 森永健二



支部活動にぜひご協力下さい！ 組合員活動部：087-833-8115